第２期沼津市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業　ＫＰＩ一覧（全76事業）

資料2－3

No.	事業名	担当課	数値目標	基準値（R1）	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	評価（対基準値）	KPI（重要業績評価指標R7）	R6取組内容	R6実績値が基準値から悪化した理由	KPI達成に向けての今後の取組・認識について
1　力強い産業を育て魅力ある雇用を創出する													
１－１　地場産品の競争力強化と地域経済の活性化			販路開拓等に取り組んだ商品の売上高対前年度比率	未実施（R2）	集計初年度	対前年度比114%	対前年度比99%	対前年度比113%	↘	対前年度比120%			
①	産業間連携による地域資源の活用（物産振興の推進）	産業政策課、商工振興課、農林農地課、水産海浜課	販路開拓等に取り組んだ商品の売上高対前年度比率	未実施（R2）	集計初年度	対前年度比114%	対前年度比99%	対前年度比113%	↘	対前年度比120%	＜農林農地課・水産海浜課＞ ○ブランド化品販促支援 ○農水産物の販路拡大・PR ＜商工振興課＞ ○既存商品リブランディング、フォローアップ ＜産業政策課＞ ○新たな販路の開拓支援 ○積極的な情報発信	KPIは達成できなかったが、生産者や関係機関と連携し地域資源の活用に取り組んでおり、集計初年度と比較し、販路開拓等に取り組んでいる商品の売上高は増加傾向にある。	農水産物の活用を図るため、産業振興部内での連携に加え、生産者や関係機関等との連携体制を構築する。 また、地域資源の活用促進として物産開発研究助成を行うとともに、新たな販路開拓の支援として、バイヤー等とのマッチングの機会を実施する。
②	地産地消の総合的な推進	農林農地課	学校給食へ地場農産物を提供する農家数	138戸	146戸	152戸	198戸	178戸	↗	152戸	11品目の地場農産物導入を実施	資材高騰や異常気象により、農家数が減った。	関係機関との情報共有を行い、収穫状況に応じて臨機応変に対応する。
③	沼津の農産物振興	農林農地課	茶生産量	788t	727t	693t	629t	609t	↘	900t	・沼津茶100杯サービス、お月見茶会、山カフェなど、お茶関係イベント開催を通じた沼津茶の消費拡大推進 ・みかんの優良品種転換促進に向けた苗木補助等を実施	茶価低迷及び茶の需要減少のため、収量が減となった。	「お茶」「みかん」を中心に安定した生産量の確保、また品質向上や消費拡大に向けて生産者・関係団体等を支援していく。
④	水産業振興の推進	水産海浜課	4漁協と沼津魚市場(株)の水揚（取扱）量	91,582t	104,509t	79,885t	71,534t	R7年５月８日時点で数値資料なし	―	94,000t	市内漁業者を対象とした出漁・流通促進等の支援、漁協等が実施する魚食普及事業への支援、市水産物のPR活動、販路拡大・ブランド化の推進、PR動画の制作・公開	作成時点において、各漁協と沼津魚市場（株）の水揚（取扱）量が出ていないため。	魚食普及や地産地消、流通の促進や販路拡大に向けた取組を推進し、地域経済を支え、本市を代表する地場産業である水産業の振興を図る。
１－２　新たな仕事づくりと雇用の創出			新規に創出した従業者数	101人	141人	178人	204人	集計中	―	160人			
①	公民連携リノベーションまちづくりの推進	まちづくり政策課	事業を通じて増加した従業者数	57人	83人	99人	113人	121人	↗	90人	市内企業にオープンイノベーションを促す企画「企業版リノベーションスクール」を実施した。また、空きビル暫定利用を支援し、モデル事業として機能させるほか、まちなかに暮らすイメージを喚起した。		引き続きスクールを実施し、新たな地域課題解決事業の創出を支援していくことはもちろん、R6に参加した企業のフォローアップも含めて成果を取り上げる。また、居住の促進については、他団体の事例等も参考に、今後の支援策や他の関連事業との連携・再編について検討する。
②	起業創業支援	商工振興課	ぬまづビジネスサポート連絡会の支援により新規に創業した事業者数	44件	58件	79件	91件	集計中	―	70件	・沼津地域中小企業支援センター運営事業、知的財産活用事業、ターゲット別起業セミナー（女性・スモールビジネス・ソーシャルビジネス・創業者フォローアップセミナー）のほか、女性起業家育成プログラムとして女性起業家の輩出を伴走支援し、発表会を開催。 ・支援機関連携の沼津ビジネスサポート連絡会を通じ、情報交換と伴走支援を実施。		沼津地域中小企業支援センターの相談数は堅調に推移しており、起業創業のワンストップ窓口として定着化しており、更なる連携を図っていく。 令和7年度も創業セミナー（女性・スモールビジネス・創業フォローアップ）のほか、女性起業家育成後援会を開催する。また、新たに高校生向け起業マインド創出事業を実施し、起業意識の創出を図り、将来的な市内企業やUIJターン就職につなげていく。
③	まちなか商業リブランディングの推進	商工振興課	中心市街地歩行者数	45,250人（R2）	42,703人	45,707人	51,858人	58,941人	↗	80,000人	・沼津駅北口エリアにおいて、リブランディング企画塾を実施。エリアの魅力発見・エリアブランディングに向け、フィールドワークなどを通じてイラストマップの制作や活動発表会を開催。		引き続き、リブランディング企画塾を実施していくことで、リブランディングに取組む店舗の増加を図り、エリア全体の魅力を高めていく。また、情報発信において、エリアの魅力を広く周知していくことで、来訪者の増加を目指す。
１－３　地域産業を担う人材の確保・育成			従業者数	101,160人（H28）	－	100,460人（R3）	－	－	↘	110,000人			
①	沼津しごとの応援	商工振興課	本事業により市内企業に就職した数	12人	25人	20人	21人	16人	↗	延べ100人	沼津しごと応援サイト「ぬまjob」の運営、合同就職面接会の開催、学内就職説明会の開催、キャリアデザイン相談センターの設置、デジタル人材育成プログラムの実施、学生・新卒者向け支援事業（奨学金返還支援事業）の実施		合同就職面接会等の前段階に、企業の担当者と学生を含む求職者との交流により、地元企業の魅力を伝え、実際に働くイメージを持っていただくため、企業交流会を実施予定。
②	農業改革の推進	農林農地課	農地集積の面積	45.2ha ※単年度ベース	26.8ha	20.4ha	19.7ha	23.2ha	↘	150ha ※累計	農用地利用集積計画の策定（毎月　全12回）後、農地集積を実施	新規利用者（借り手）の利用面積減少	本制度の利用拡大に向け、各地区の担い手（認定農業者など）確保に向けたPR活動等を実施していく。
③	男女共同参画の推進	地域自治課	男女共同参画推進事業初認定数	91事業所（R2）	97事業所	103事業所	108事業所	111事業所	↗	115事業所	推進事業所の広報と認定を滞りなく行うとともに、関係機関と連携し情報発信を行った。次年度に向け、事業所のメリット創出について関係機関と協議を行った。		達成に向けて、引き続き認定事業所の活動紹介の機会を増やすとともに、関係機関と連携し情報発信を行っていく。
			市審議会等への女性登用率	女性登用率29.2%	女性登用率30.5%	女性登用率30.7%	女性登用率29%	女性登用率29.2%	→	女性登用率35%	各審議会等の運営が適正に行われるよう、指針の周知徹底を図った。事前協議の書類が提出された際、その都度、積極的な女性委員の登用等について指導を行った。		達成に向けて、引き続き各審議会等の運営が適正に行われるよう指針の周知徹底を図るとともに、委員の委嘱について指導を行っていく。
④	人材の育成（企業創業支援）	【再掲】１－２－②											
１－４　立地環境を活かした企業誘致			年間企業立地件数（補助制度活用による）	2件	9件	4件	8件	4件	↗	延べ50件			
①	企業立地の促進	産業政策課	年間企業立地件数（補助制度活用による）	2件	9件	4件	8件	4件	↗	延べ50件	・企業訪問、企業立地に関する展示会への出展などの情報収集活動 ・企業立地、設備投資など各種助成制度の運用 ・企業立地規制緩和策の検討、協議 ・IT企業誘致に向けた市内体験型視察ツアーの実施		市外企業の進出や既存企業の業務拡張を推進するため、引き続き企業訪問や展示会への出展などにより、工業用地の情報を迅速に受発信するとともに、新たな工業用地の確保に向け、関係部署との調整を図り、民間主導による工業用地の整備について積極的に支援していく。
②	農業団地事業構想（農業改革の推進）	【再掲】１－３－②											

第２期沼津市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業　ＫＰＩ一覧（全76事業）

資料２－３

No.	事業名	担当課	数値目標	基準値（R1）	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	評価（対基準値）	KPI（重要業績評価指標R7）	R6取組内容	R6実績値が基準値から悪化した理由	KPI達成に向けての今後の取組・認識について
2 沼津への新しいひとの流れをつくる													
２－１ まちなか居住の推進と都市的魅力の向上			中心市街地歩行者数	45,250人（R2）	42,703人	45,707人	51,858人	58,941人	⤴	80,000人			
①	沼津駅周辺総合整備	推進課、整備課、沼津駅周辺区画整理事務所	片浜西沢田線の整備	0km	0km	0km	0km	0km	→	0.9km（R8）	片浜西沢田線道路築造工事		引き続き整備を進めていく
			移転先周辺の基盤整備	0ha	0ha	0ha	0ha	0ha	→	3.5ha（R8）	新貨物ターミナル調整池築造工事		引き続き整備を進めていく
②	総合体育館等の整備	ウィズスポーツ課	総合体育館の年間利用者数	241,398人	－	23,964人	294,994人	319,561人	⤴	400,000人（R5年度以降）	各種スポーツ教室、大会の開催 プロスポーツ（Vリーグ、Bリーグ）興行 スポーツ合宿の誘致		施設の周知を図るとともに、様々なスポーツ教室の開催や合宿誘致に取り組み、稼働率の向上を目指す。
③	市街地再開発等の推進	市街地整備課、まちづくり政策課	中心市街地における居住人口の拡大（大手町２～５丁目、上土町、通横町、町方町）	1,600人（R2）	1,575人	1,533人	1,439人	1,404人	⤵	2,020人	市街地再開発事業(組合施行)の進展に伴う適切な助言・指導。 町方町・通横町第一地区において、R6年10月から解体工事開始。 大手町五丁目第一地区において、R6年11月に都市計画決定告示。	数値目標としている居住人口の拡大は、各再開発事業の完了をもって得られる成果であるため、事業中の時点において事業評価が得られない	町方町・通横町第一地区第一種市街地再開発事業の事業完了は令和10年度の予定。マンションの販売開始等にあわせ、市外・県外を中心に周知を図り、人口拡大につなげていく。
④	中心市街地まちづくり戦略	まちづくり政策課	中心市街地歩行者数	45,250人（R2）	42,703人	45,707人	51,858人	58941人	⤴	80,000人	「ヒト中心の公共空間の創出」の一環として、沼津駅南口交差点東側にて横断歩道の地上化を実施した。また、公共空間の利活用による居心地の良い空間づくりを行う社会実験「OPEN NUMAZU」を実施した。		（都）三枚橋錦町線に設置したパークレット周辺へ防護柵を設置し歩行空間を拡大するなどなど、駅前公共空間の再編に向けた取組を進め、ヒト中心のまちづくりを推進していく。
⑤	公共交通ネットワークの形成	まちづくり政策課	公共交通利用者数	45,837人（H30）	32,995人（R2）	35,133人（R3）	37,686人（R4）	39,812人（R5）	⤵	45,900人	小学生向けのバス教室の開催やバスの日関連バスイベントにより、利用促進を行った。また、公共交通の運行時間帯の拡大を図るため夜間乗合タクシーの実証運行を行った。 JR片浜駅にデジタルサイネージを設置し利用者の利便性向上を図った。	新型コロナの影響によりR2に大幅減となった後、徐々に回復傾向にあるが、依然としてコロナ前の水準までは戻っていない。 バスについてはコロナ前と比べ減便していることが、利用回数が戻りきらない一つの要因として考えられる。	路線の再編や公共交通軸における運行頻度の確保等、サービス水準の向上を図ることでより利用しやすい公共交通となるよう随時施策を展開していく。
⑥	公民連携リノベーションまちづくりの推進	【再掲】１－２－①											
⑦	まちなか商業リブランディングの推進	【再掲】１－２－③											
⑧	文化財の保存活用	文化振興課	利用者数	18,000人	6,000人	8,300人	12,000人	11,500人	⤵	32,000人	・重要文化財松城家住宅の一般公開、指定管理者による自主事業や企画展などを実施（10件） ・長浜城の一般公開、地域の関係団体と共催で内浦湾クルージングと長浜城ウォーキングのコラボイベントを実施 ・帯笑園の一般公開、花の鑑賞会や育て方教室など季節に合わせたイベントを実施（10回）、小学生の体験学習や地域団体等の見学受入対応（6回）	・各施設ともに年間を通じて企画展やイベントなどを複数回実施しており、地域団体等と連携するなど積極的に取り組んでいるが、実績値が基準値に達しない理由として、利用のきっかけとなるような魅力づくりの不足や周知方法の固定化などが考えられる。	・まだ施設を利用したことのない方への周知方法の工夫や、リピーターを増やすためのイベントや企画内容の工夫など、文化財の価値や魅力をより多くの方に伝えていくための方策を様々な視点で検討する。 ・文化財に興味をもつきっかけとなるよう他分野と組み合わせたイベントなどを検討する。
２－２ “ぬまづ暮らし”の発信による住み替えの促進、関係人口の創出・拡大			社会移動数	535人	△512人	173人	68人	133人	転入超過維持	転入超過維持			
①	ぬまづ暮らしへの住み替えの促進	政策企画課	事業を通じた移住者数	18人	38人	185人	345人	338人	⤴	延べ125人	相談受付、首都圏での移住相談会出展、市単独移住相談会開催、市内タクシー無料案内、他市合同バスツアー開催、官民連携体制での移住支援、インターネット広告配信、移住を支援する補助金交付、LINEによる移住相談、移住者交流会の開催		移住者獲得のためには官民連携での情報発信が重要である。共催イベントや意見交換の実施など体制を強化していく。
②	沼津の魅力発信の推進	広報課	ぬまづの宝100選の市民認知度	53.9%（H28）	60.1%	61.2%	49.9%	62.8%	⤴	100%	「ぬまづの宝100選」を中心としたシティプロモーション ・市内巡回パネル展の開催（R5から継続） ・100選巡りバスツアーの企画・開催（R6新規） ・広報ぬまづ、FMラジオ放送とのタイアップ（R6新規） ・PRグッズや関連印刷物等の作成　など		「ぬまづの宝100選」の市民認知度は62.8%（R6市民意識調査）で、前年度と比較して12.9ポイント上昇したが、年代別において20代の認知度が38.7%と最も低い状況にあることを念頭に、計画業務を実施する際には各種SNSを活用した情報発信を行うなど、複合的なプロモーションを展開していく必要がある。
			市HP「フォト＆ムービーライブラリー」閲覧数	月平均1,589アクセス	月平均2,483アクセス	月平均3,034アクセス	月平均1,901アクセス	月平均1,325アクセス	⤵	月平均3,000アクセス	市ホームページ「フォト&ムービーライブラリー」の充実 ・掲載内容の充実（埋蔵文化財関連の写真掲載） ・過去写真等のデータ化　など ・「フォトストック＆ビューアー」の導入・運用（R6新規）	開設から10年が経過。掲載内容の追加・更新の不足が挙げられる。	「フォト＆ムービーライブラリー」のアクセス数が年々減少しているが、令和7年1月から運用を開始した写真投稿・公開サイト「フォトストック＆ビューア」と併せて周知を図るとともに、ぬまづの宝100選の掲載写真の更新やドローンを活用した市内の空撮映像を掲載するなど、内容を充実させることでアクセス数の増加を目指していく。
③	観光プロモーション	観光戦略課	観光交流客数	436万３千人	243.0万人	327.5万人	366.3万人	330万人（見込）	⤵	600万人	・首都圏等への観光プロモーションの実施 ・パワースポットを活用したPR	観光需要はコロナ禍前に比べると完全には回復していないため。	首都圏を中心にPRを強化するとともに、海の魅力やアニメなど、更なるプロモーションに取り組む。
④	ふるさと納税の推進	産業政策課、政策企画課	ふるさと応援基金寄附金寄附件数	15,963件	95,420件	194,265件	374,359件	359,671件	⤴	35,000件	・寄附の受付及び返礼品の進呈 ・新規返礼品の開拓及び既存返礼品のブラッシュアップ。 ・インフルエンサーを活用した事業PR ・宿泊等現地体験型返礼品の企画。 ・寄附金活用事業の周知（公式HP及び看板設置ほか） ・企業版ふるさと納税の受付		多くの方に本市を応援していただけるよう魅力ある返礼品開拓を進めるとともに、これまで寄附していただいた方が、引き続き、応援していただけるよう、リピーター対策にも注力する。 また、関係人口の増や地域のにぎわいにも繋がる現地体験型返礼品の出品にも努める。 企業版ふるさと納税の取り組みをPRする。
⑤	中央公園等リノベーション	緑地公園課、まちづくり政策課	民間事業者等との連携による公園整備	0か所	0か所	0か所	0か所	0か所	→	計2か所	中央公園設置管理事業者募集・協定締結、中央公園再整備詳細設計、パークマネジメント協定等による公園の利活用		中央公園再整備供用開始に向けた、市工事と民間工事の工程管理の実施。
⑥	空き家対策の推進	住宅政策課	管理不全な空き家の削減数	延べ168件	延べ201件	延べ234件	延べ297件	延べ316件	⤴	延べ320件	ワンストップ相談会開催、空家等除却事業費補助金制度等の運用		出前講座開催等により積極的に啓発を行う。

第２期沼津市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業　ＫＰＩ一覧（全76事業）

資料2－3

No.	事業名	担当課	数値目標	基準値（R1）	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	評価（対基準値）	KPI（重要業績評価指標R7）	R6取組内容	R6実績値が基準値から悪化した理由	KPI達成に向けての今後の取組・認識について
２－３	観光資源を最大限活用した交流人口の拡大		観光交流客数	436万3千人	243.0万人	327.5万人	366.3万人	330万人（見込）	↘	600万人			
①	観光プロモーション	【再掲】２－２－③											
②	深海魚を活用した地域産業の活性化（水産業振興の推進）	【再掲】１－１－④											
③	沼津港みなとまちづくりの推進	水産海浜課	来港者入込客数	166万人（H30）	調査なし	調査なし	164万人	調査なし	↘	178万人	みなとまちづくり推進計画の推進、県による港湾整備促進（負担金支出）、沼津港振興会の運営、新たなSea級グルメの開発・普及		県が策定した「沼津港みなとまちづくり推進計画」に基づく整備計画の中で、必要となる地元との調整等を実施していく。 沼津港の更なるにぎわいの創出のため、Sea級グルメの普及展開や、浮桟橋及び西側緑地を活用したイベント等を実施していく。
④	イベントの展開とにぎわいの創出	観光戦略課	観光交流客数	436万3千人	243.0万人	327.5万人	366.3万人	330万人（見込）	↘	600万人	・沼津夏まつり・狩野川花火大会の開催 ・hana・花・シンフォニーの開催	観光需要はコロナ禍前に比べると完全には回復していないため。	物価高騰に対応しつつ、各イベントを趣向を凝らして開催する。
⑤	広域観光・MICEの推進	観光戦略課	管内でのMICE開催件数	26件	11件	12件	17件	21件	↘	43件	・開催支援制度を活用したプラサヴェルデでのMICE誘致 ・キラメッセぬまづ（指定管理者）との連携によるコンベンションの推進 ・太陽光発電国際会議の開催	コロナ禍を経て非対面の会議等が定着してきたこともあってか、前年度からは増加しているものの、基準値を下回る状況が続いている。	会議や大会の開催数は回復傾向にあるが、出展社数や来場者数が回復していないケースが散見される。コロナ禍をきっかけとして、リアル開催から離れていたり、ハイブリッド開催をしているケースがあることも想定されるため、補助メニューの周知など、参加者数の増加につながるよう積極的なPRに努める必要がある。
			管内でのMICE参加者数	12,312人	5,591人	9,346人	6,593人	4,434人	↘	20,800人	同上	コロナ禍を経て非対面の会議等が定着してきたこともあってか、基準値を下回る状況が続いている。昨年度と比べ、開催件数は増加したものの、ハイブリッド開催の影響もあってか、実績値は減少している。	
			管内でのMICE延宿泊数	7,631泊	689泊	2,215泊	1,887泊	8,067泊	↗	8,940泊	同上		
⑥	沼津御用邸記念公園の保存活用	緑地公園課	来園者数	127,440人	36,221人	64,858人	59,847人	59,500人	↘	延べ640,000人	クロマツ林の伐採及び林床整備の実施や、解説サイン看板及び展望地完成。また、指定管理者によるお土産や食事などの商品開発等により消費額増加に力を入れた。	新型コロナウイルス感染症の影響による来園者数の減少後、個人利用者数は戻り傾向にあるが、団体観光利用者数が戻っていないため。	文化財整備事業のクロマツ林の伐採及び林床整備の継続実施と西附属邸耐震化工事の実施を行う。これらの文化財整備事業に加え、観光拠点としての景観の維持・改善や老朽化した建物・設備の修繕・改修工事を行うとともに、団体観光客増加に向けて、指定管理者と共に営業に力を入れていく。
⑦	沼津サイクルツーリズムの推進	ウィズスポーツ課	サイクル拠点施設利用者数	2,300人	3,828人	3,828人	3,906人	3,412人	↗	2,800人	・サイクルステーション運営、バイシクルビット整備・拡充 ・広域連携サイクル事業の実施（狩野川サイクル協議会、富士市等）		持続的・発展的なサイクルツーリズム推進のため、既存の事業者との連携や新たな担い手の発掘・育成に取り組み、民間事業者主導による事業推進を図る。
⑧	フェンシングのまち沼津の推進	ウィズスポーツ課	フェンシング大会及び合宿の開催に伴う観光交流客数	0人	1,160人	1,440人	6,000人	6,800人	↗	延べ450人	・競技者、支援者の拡大(スマートフェンシング機材導入、活用) ・シンボルフェンサーの育成（全中優勝、インハイメダル獲得、カデ日本代表入り、カデアジア選手権ベスト16） ・F3 BASE継続利用・拠点施設の方針検討 ・Proud NUMAZU CUPフェンシング選手権開催 ・全日本フェンシング選手権大会開催		市内の選手から日本代表が輩出され、また県外の大学にも合宿利用してもらうなど、F3 BASEを拠点に、「フェンシングのまち沼津」のブランド化が進んできていることから、施設の利用継続による更なる利用促進を図る。 また、通年を通してフェンシングのまち沼津推進協議会の周知拡大を進め、会員拡大を図る。
			フェンシングのまち沼津推進協議会会員数	0人	50人	69人	69人	73人	↗	延べ100人			
⑨	アスルクラロ沼津のホームタウン活動の推進	ウィズスポーツ課	ファミリー会員登録数	2,913人	2,627人	2,397人	2,424人	2,299人	↘	3,400人	・オールブループロジェクト展開（ホームゲーム周知、SNS発信、まちなか装飾等） ・沼津マッチ開催 ・子ども向け無料観戦チケット「アスポート」スポンサー支援 ・ホーム戦沼津市ブース出展支援 ・庁内各課とクラブとの連携仲介・調整 ・総合型地域スポーツクラブの育成支援	コロナの影響で減少したファミリー会員数が反転攻勢に至らなかったため。	クラブと連携し、沼津市を盛り上げていくための施策を展開していく。 市民に愛されるクラブとして成長できるよう、更なる応援機運の醸成を図っていく。
			ホームゲーム平均入場者数	2,470人	1,482人	1,684人	1,961人	2,633人	↗	3,500人			
２－４	外国人の誘客とおもてなしの充実		外国人宿泊者数	30,213人	1,778人	4,542人	10,104人	22,962人	↘	100,000人			
①	インバウンドの推進	観光戦略課	外国人宿泊者数	30,213人	1,778人	4,542人	10,104人	22,962人	↘	100,000人	・海外ユーザー向けSNS発信、英語版観光ポータルサイト運営 ・台湾向けプロモーション、高雄市と観光交流促進協定の締結	旺盛なインバウンド需要は三大都市圏に集中しており、地方へ十分に波及していないため。	関係が深まっている台湾をはじめとする東アジア地域からの誘客に向け、海外旅行会社を活用したプロモーションや高雄市との観光交流など、積極的に取り組む。
②	広域観光・MICEの推進	【再掲】２－３－⑤											

第２期沼津市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業　ＫＰＩ一覧（全76事業）

資料２－３

No.	事業名	担当課	数値目標	基準値（R1）	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	評価（対基準値）	KPI（重要業績評価指標R7）	R6取組内容	R6実績値が基準値から悪化した理由	KPI達成に向けての今後の取組・認識について
3	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる												
3－1	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現		男女共同参画推進事業初認定数	91事業所（R2）	97事業所	103事業所	108事業所	111事業所	↗	115事業所			
①	男女共同参画の推進	【再掲】 1－3－③											
②	健康づくりの推進	健康づくり課	メタボリックシンドローム該当者の割合	17.9%	19.7%（R2）	19.8%（R3）	20.7%（R4）	20.4%（R5）	↘	17.6%（R6）	働き盛り世代の健康意識向上のため、企業へ訪問し従業員の健康に関する支援として健康度測定や健康講話を実施した。 また、生活習慣病の一次予防として、各種事業（講座、イベント等）を通して市民が主体的に健康づくりに取り組むきっかけ作りに努めた。健康づくりに関する週間、月間に併せキャンペーン活動を実施し、健康マイレージの紹介を行いながら、個人の自発的な取り組みに対する意識向上を図った。	市民の健康寿命の延伸を目指す健康づくりを目標に事業を推進しているが、数値目標に直結しない状況である。このような状況であるが、個々の活動の積み重ねが将来数値目標に現れるものと考え、参加者からのアンケート結果等を踏まえつつ改善しながら現行の活動を継続していく。	働き盛り世代の健康意識の向上のために、企業ごとに異なる健康課題を的確に把握し、それぞれの企業が求める個々の案件に対し、柔軟かつ適切に体操する必要があるものと認識する。 また、生活習慣病予防のためには、健康づくりのきっかけづくりとして自ら生活習慣を見つめ直す機会を創出することが重要であると捉え、多くの者が参加を希望する企画を検討していく。
			脂質異常者の割合	55.0%（H30）	56.0%（R1）	56.3%（R2）	56.0%（R3）	未集計（6月半ば判明）	―	53.5%（R5）			
			血糖異常者の割合	10.3%（H30）	10.2%（R1）	10.5%（R2）	10.4%（R3）	未集計（6月半ば判明）	―	9.5%（R5）			
③	いきいきスポーツの推進	ウィズスポーツ課	スポーツ実施率（週1回以上運動した人の割合）	29.3%（H30）	―	51.6%	52.9%	55.1%	↗	65%（R10）	・地域体力づくり教室開催（45教室） ・各種スポーツ大会開催（町別ソフトボール大会、町別バレーボール大会、千本浜ファミリーマラソン大会、市駅伝大会） ・沼津市スポーツ祭開催 ・トップアスリート教室開催（ベルテックス静岡、東レアローズ、静岡ブルーレヴズ、アスルクラロ沼津）		市民の日常生活にスポーツを浸透させるため、今後も市民向けの体力づくり教室や各種スポーツ大会を実施する。
3－2	若い世代の経済的安定		沼津しごと応援事業により市内企業に就職した数	12人	25人	20人	21人	16人	↗	延べ100人			
①	沼津しごとの応援	【再掲】 1－3－①											
②	不妊・不育症治療費の助成	健康づくり課	不妊・不育症治療を受けた人の妊娠者数	82件	104件	74件	95件	111件	↗	100件	令和5年度においては、事業拡大を目指し、助成対象を事実婚の夫婦にも拡大するとともに、助成条件を「第１子又は第２子」から「制限なし（第3子以降を可とする）」へと緩和した。また、市広報紙やホームページ等を活用し情報発信を行うとともに、窓口でのきめ細かな案内を通じて事業内容の周知及び利用促進に努めてきた結果、申請者数は増加傾向にある。		少子化が急速に進行する中、令和4年度から不妊治療の一部に公的医療保険が適用されるなど、国においても治療を受けやすい環境の整備が進められている。本市としても、令和5年度から事業拡大を目指し、助成対象を緩和した結果、申請者数が増加した。今後も、広報紙やホームページでの周知に加え、窓口でのきめ細やかな案内を通じて夫婦が機会を逃すことなく望む治療を受けることができるよう支援を継続するとともに、国や県の動向にも注視しつつ適切な措置を検討していく。
3－3	結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援		婚姻数	912件	776件	679件	677件	658件	↘	1,000件			
①	出会い応援・結婚新生活支援	政策企画課	婚姻数	912件	776件	679件	677件	658件	↘	1,000件	・婚活セミナー、イベントの開催 ・結婚新生活支援事業の運用 ・「沼津の出逢い応援課」サイトの運営　ほか	・人口減少に比例した婚姻組数の減少 ・結婚に対する考え方の多様化に伴う婚姻数の減少　等	・地域資源を活用した気軽に参加できる出会いの機会の提供や、近隣市町等と連携した広域イベントの開催など、多様な出会いの機会を創出を検討する。 ・「ふじのくに結婚応援協議会」（県事業）による結婚支援の実績等から、本市の結婚支援と協議会が提供するサービスの内容や対象者の違い等を踏まえ、より効果的・効率的な事業となるよう、引き続き内容を検討する。
②	不妊・不育症治療の助成	【再掲】 3－2－②											
③	妊娠・出産の包括支援	こども未来創造課 健康づくり課	産後ケア利用者数（年間実数・産婦の利用割合）	28件・約2%	21件・約2%	24件・約2%	33件・3.9%	40件・約4.7%	↗	50件・5%	・伴走型相談支援として、妊娠中期の妊婦にアンケートの回答を求めることで、必要時妊婦に産後ケア事業などを紹介する等、支援を必要とする妊婦に手厚くサポートを行うことができた。 ・産婦連絡票等の活用により、医療機関をはじめとした関係機関とのネットワーク強化に努めた。 ・母子手帳交付時、赤ちゃん訪問時にすべての妊婦・産婦に対し、産後ケア事業について説明することで、事業の周知を図った。		妊娠期から子育て期にわたる総合相談や支援を実施するこども家庭センターで、支援を必要とするハイリスク妊婦の早期発見、適切な支援プランの策定、管理、関係機関との連携を実施している。産婦についてもサポート体制をより充実させるために、赤ちゃん訪問等でニーズ把握に努め、必要時は産後ケア利用につなげていく。

第２期沼津市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業　ＫＰＩ一覧（全76事業）

資料2－3

No.	事業名	担当課	数値目標	基準値（R1）	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	評価（対基準値）	KPI（重要業績評価指標R7）	R6取組内容	R6実績値が基準値から悪化した理由	KPI達成に向けての今後の取組・認識について
３－４　子ども・子育て支援の充実			保育所入所待機児童数	15人	3人	5人	5人	7人	⤴	0人			
①	多様な保育サービス	こども未来創造課	保育所入所待機児童数	15人	3人	5人	5人	7人	⤴	0人	乳幼児保育（34か所）、障がい児保育（24か所）、延長保育（33か所）、一時預かり保育（35か所）、等実施　・金岡待機児童センター運営　・幼保連携型認定こども園（8か所）、既存施設の認定こども園移行（大平保育所・大平幼稚園が統合しR7より認定こども園へ移行）		既存の保育施設の定員増加や、保育サービスの充実に向けた支援を行い、入所待機児童解消に努めていく。（7人のうち、5人は、大岡・金岡などの駅北エリア希望者）
②	地域子育ての支援	こども未来創造課	子育てしやすい環境にあると感じている市民の割合	74.7%	86.8%（R2）	76.1%	76.9%	79.3%	⤴	80%	子育て支援施設における一時預かり保育、乳幼児・保護者同士のふれあいの場の創出、育児相談の実施　・子育てサポートキャラバンの実施、ファミリーサポートセンター運営、親子絵本ふれあい事業等実施　・ネットワーク会議開催（2回）		子育て中の親の孤独感や不安感の解消に向けた拠点施設として、子育て支援センターを顕在化し、地域における子育て親子の交流等を支援していく。また、主食提供など、今後も子育て世帯のニーズを踏まえた施策を実施していく。
③	みんなで子育て支援	こども未来創造課	児童ショートステイ事業	56人／年	57人／年	40人／年	47人／年	124人／年	⤴	224人／年	従来通り、国の制度に準じた運用を継続。受け入れ先との連絡経路を調整したり、ケースワークの一環として取り入れたりすることで、希望通りの利用となるよう工夫した。		潜在的なニーズは多いため、ケースワークにおいて発掘を図る。併せて、利用可能な資源（受け入れ先）の増加、利用調整の方法を工夫していく。
			ひとり親世帯を対象とした支援制度の認識度	－	59.0%	64.0%	68.1%	66.3%	⤴	25%	児童扶養手当受給者を対象に、ひとり親世帯を対象とした支援制度等の認識アンケートを実施した。		こども家庭センターと連携し、児童に関する相談を受ける中で、各種手当をはじめとする支援制度を案内するほか、ハローワークやひとり親サポートセンターなどの関係機関と連携し、ひとり親の自立支援のための給付金制度等について積極的に情報提供を行うなど、さらなる周知広報に努める。
３－５　沼津らしい子ども教育の更なる推進			特色ある教育活動が行われていると感じている保護者の割合	87.6%	80.9%	86.8%	86.0%	85.4%	⤵	90%			
①	学校教育・家庭教育の「地域総がかり」による推進	学校教育課、生涯学習課	住んでいる地域への関心が高まっている小中学生の割合	84.6%	80.2%	83.9%	81.8%	82.8%	⤵	90%	地域交流・体験学習・校外学習の推進と、外部人材の活用を図る独自の取組を行う各小中学校を、交付金の交付を通じて支援した。	子供たちにとっての興味や関心がコロナ禍を経て、これまで以上に動画やゲームに移行し、中学生は学習塾や習い事に忙しい場合もある。年々子供たちを取り巻く環境が変化する中で、これまでのような方法で地域への関心を高めることが難しくなっていると考えられる。	コミュニティ・スクールの推進と併せ、さらに地域との交流を積極的に行っていく。
			特色ある教育活動が行われていると感じている保護者の割合	87.6%	80.9%	86.8%	86.0%	85.4%	⤵	90%	地域交流・体験学習・校外学習の推進と、外部人材の活用を図る独自の取組を行う各小中学校を、交付金の交付を通じて支援した。	共働きで日々の生活に精一杯であったり、外国籍の保護者が増えたりする状況の中、地域や学校の取組にまで関心がもてないことが考えられる。また、「特色ある教育」という言葉が何を示しているのかを捉えられていない場合も考えられる。	コミュニティ・スクールの推進と併せ、地域の特色を活かした独自の取組を推進していく。
			学校運営協議会及び地域学校協働本部設置校区の割合	12%（2校区：R2）	24%（4校区）	47.1%（8校区）	100%(17校区)	100%(17校区)	⤴	100%（17校区）	R5にすべての中学校区に学校運営協議会及び地域学校協働本部を設置したことにより、R6は年度当初から、地域と学校が連携する体制を構築し、協議会を開催し、支援活動等を実施した。		
			家庭教育講座受講者数	238人	0人	155人	114人	344人	⤴	1,100人	市全域の保護者を対象とした講座の定期開催、学校や園などの地域での出前講座等を実施し、保護者の不安や悩みの軽減や家庭教育力の向上を図った。		保護者の意識や取り巻く環境が変化していることから、保護者の自主的・主体的な学びを様々な方法で支援していくとともに、講座の新たな開催方法を試行しながら、参加者の増加を目指していく。
②	言語教育による読解力・表現力の育成	学校教育課、生涯学習課	コミュニケーション能力が向上していると思う子ども、保護者、教員の割合	83.7%	83.7%	85.2%	86.6%	87.7%	⤴	95%	英語コミュニケーション能力向上のための本市独自の「パフォーマンステスト」について、外部ALTと1人1台端末を組み合わせた手法により実施した。		パフォーマンス・デイ（R7名称変更）の実施を通じて、その結果を生徒にもフィードバックすることで、生徒自身の振り返り、今後の学習改善に寄与するとともに、テストの結果を全学校・全英語教員で共有し、生徒の英語パフォーマンス能力向上のための授業改善につなげる。
			一人あたりの図書貸出数	39.8冊	40.2冊	40.7冊	42.9冊	41.3冊	⤴	45冊	各校での選択研修の実施等、図書館支援員に対する研修のあり方を工夫し、充実を図った。		図書館支援員に対し、選択研修の回数、実施方法を工夫し、研修の充実に努めることにより、児童生徒がより多くの本に関心をもち、読書に取り組むことができるようにする。
			「授業が分かる」と感じる小中学生の割合	91.9%	89.1%	93.0%	90.0%	88.9%	⤵	95%	児童生徒の「聞く力」「話す力」の向上を図りつつ、コミュニケーション能力や感性・情緒の基盤である言語能力を育成するため、本市独自の教科である「言語科」の実施に全校で取り組んだ。	社会的な課題について、短い情報を正確に聞き取ることに課題があると分析している。	言語活動を通じて、関わり合いながら解決に向かっていくプロセスを大切にし、思考を深めていくような教育を、ICTの積極的な活用により実践していく。
			全国学力調査（英語）	県・全国平均を上回る	実施なし	実施なし	県より1.0低く、全国より0.4高い。	実施なし	⤵	県・全国平均を上回る	未実施	未実施	未実施
③	ICT活用教育の推進	学校教育課	教職員に対するアンケート（「教職員に対する研修が十分行われている」）	未実施（R2）	88.1%	95.7%	84.0%	88.3%	⤴	90%	授業力向上に向けて、情報教育推進室の情報教育コーディネーターと教職員研修センターの研修アドバイザーが学校訪問し、学校毎のニーズに即した指導を実施した。		学校間・教師間のICT活用スキルの底上げを図るため、各学校が抱える課題に応じた支援訪問の充実を図る。
			児童生徒に対するアンケート（「担任の教師がICTを十分活用している」）	未実施（R2）	90.5%	92.6%	91.9%	92.1%	⤴	90%	ICT活用方針に基づき、積極的な活用に取り組んだ結果、普通教室での授業にとどまらず、生徒会活動やオンライン社会科見学、地元企業の授業・研修等支援や庁内他課（自然観察会）との連携など、幅広い活用が進んだ。		学校間・教師間のICT活用スキルの底上げを図るため、各学校が抱える課題に応じた支援訪問の充実を図る。
④	高校生しゃべり場inぬまづの開催	生涯学習課	高校生（ハイポート）の自主活動の回数	1回	2回	2回	2回	2回	⤴	3回	8月19日（月）にららぽーと沼津を会場にして「高校生しゃべり場inぬまづ」を実施し、高校生12人が参加した。しゃべり場参加者のうち6人が新たに沼津ハイポートに加入し、幅広い交流が持てた。 沼津ハイポートの自主事業（ラジオ「沼津ハイポート」、ハイフェス）において助言やフォローを行い、活動を促進した。		高校の枠を超えた幅広い交流を持たせるよう、研修会等で機会を醸成するとともに、沼津ハイポートの活動をサポートし、活動の活性化を図る。

第２期沼津市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業　ＫＰＩ一覧（全76事業）

資料２－３

No.	事業名	担当課	数値目標	基準値（R1）	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6実績値	評価（対基準値）	KPI（重要業績評価指標R7）	R6取組内容	R6実績値が基準値から悪化した理由	KPI達成に向けての今後の取組・認識について
4	新しい時代に合った、安全・安心で誰もが暮らしやすい地域をつくる												
4－1	災害に強い安全・安心な生活環境づくり		災害に備えている市民の割合	52.1%	57.2%	62.6%	64.1%	60.6%	↗	60%			
			津波避難困難地区の解消	6箇所	6箇所	6箇所	6箇所	6箇所	→	0箇所（R4）			
①	安全な地域づくりの推進	危機管理課	地域別災害避難行動作成率	43%	46%	79%	100%	100%	↗	100%			100%達成
			津波避難路の点検及び再整備の割合（全105箇所）	79%	94%	100%	100%	100%	↗	100%（R4）	津波避難施設整備補助金を活用した整備（避難路整備3件、避難路照明灯整備3件）		全105k所から全138箇所に増加したため、引き続き、安全な避難路整備を実施していく
②	自主防災会の活性化	危機管理課	自主防災組織による避難所運営マニュアル策定数	30箇所	40箇所	43箇所	43箇所	45箇所	↗	49箇所	避難所運営マニュアルの策定支援		引き続き、策定支援を行う
③	地震防災の啓発	危機管理課	防災講座等年間参加者数	3,350人	988人	2,079人	3,736人	4,297人	↗	5,500人	防災訓練や講話等の出前講座実施		引き続き、地域・学校等での出前講座を実施してく
④	総合的治水対策の整備	河川課	床上浸水被害想定件数の削減	30件	19件	19件	19件	19件	↗	0件	大平江川排水機場築造工事（場所打杭、排水機場本体、設備等） 井戸川雨水貯留池管理用道路整備工事（法面、管理用道路等） 西島第二排水機場改修工事		財源確保に努め確実な事業進捗を図る
⑤	観光拠点における来訪者の安全確保	観光戦略課	大規模修繕・工事総数	2件	3件	8件	4件	9件	↗	延べ16件	・観光施設（資源）の適切な管理運営 ・観光施設の計画的な修繕の実施		観光客の受け入れ環境整備を計画的に進めることに加えて、適切な管理、運営、修繕を実施することで、来訪者の安全確保に努める。
4－2	便利で快適な居住環境の整備		公共交通利用者数	45,837人（H30）	32,995人（R2）	35,133人（R3）	37,685人（R4）	39,812人（R5）	↘	45,900人			
①	公共交通ネットワークの形成	【再掲】２－１－⑤											
②	沼津駅周辺総合整備	【再掲】２－１－①											
③	総合体育館等の整備	【再掲】２－１－②											
④	中間処理施設の整備	新中間処理施設整備室	新処理施設整備	0%	0%	0%	0%	0%	→	100%（R11）	継続して敷地造成工事を実施するとともに、新たな中間処理施設の整備・運営等を担う事業者の選定を行った。		継続して敷地造成工事を実施するとともに、選定した事業者が行う施設の実施設計に関する監理業務に取り組む。
⑤	空き家対策の推進	【再掲】２－２－⑥											
⑥	沼津市市営住宅今沢団地の建替え	住宅政策課	今沢団地整備率	0%	0%	0%	0%	0%	→	100%（R13）	基本設計、実施設計を行った。事業進捗モニタリングを実施した。		令和7年度から、既存集会所の解体工事が開始され、また、第1工区の建替が着手される。引き続き、要求水準書及び提案書の達成状況を確認していく必要がある。
4－3	共に支え合う地域コミュニティの充実		地区センターにおけるコミュニティ利用件数	3,750件	2,517件	3,259件	3,361件	3,434件	↘	4,000件			
①	地域コミュニティの活性化	地域自治課	地区センターにおけるコミュニティ利用件数	3,750件	2,517件	3,259件	3,361件	3,434件	↘	4,000件	市内18か所の地区センターにおいて、各地区コミュニティ推進委員会を指定管理者とし、コミュニティ活動の拠点として利用推進を呼びかけた。また、利用しやすい施設管理（修繕等）を行った。	新型コロナウイルス感染症により地域行事が中止され、利用件数が大きく減少し、コロナ禍前の水準まで回復していない。	地区のコミュニティ活動の活性化に向け、人材育成講座、地域活性化事業補助等により支援を行っていく。また、地区センターにおける飲食等、機能や運用の拡充について、指定管理者の意見も聴きながら検討していく。
②	防犯のまちづくり	生活安心課	市内刑法犯認知件数	1,421件	1,060件	1,117件	1,209件	1,128件	↗	1,200件	・防犯教室（あぶトレ！）の開催 ・自治会防犯灯、放送設備への助成 ・通学路防犯カメラ設置への助成 ・迷惑悪質電話防止装置への助成 ・広報啓発活動 ・地域防犯活動の支援 ・強盗、特殊詐欺及び「闇バイト」の増加を受け、沼津市長、清水町長及び沼津警察署長合同での注意喚起メッセージの発信 ⇒市ホームページ、SNSによる配信 大型商業施設のビジョン等における放映 広報車を通じた音声メッセージの発信や地域の自治会放送設備による呼びかけ	－	防犯灯設置や通学路防犯カメラ設置、迷惑電話対策機器購入等への助成により、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めるとともに、警察や防犯協会と連携し、防犯活動や広報啓発活動等により、市民一人ひとりの防犯意識の向上を図る。また、「ながら見守り活動」への参加促進により、新たな防犯の担い手の確保を図る。 令和6年度に急増した強盗、特殊詐欺や「闇バイト」のように、さらなる新たな手口を使った犯罪が増加傾向になった際には、沼津警察署管内首長及び沼津警察署長、地域コミュニティ団体等の連携による積極的な注意喚起の広報活動を進めていく。
③	フレイル対策の推進	長寿福祉課	フレイルチェックの参加人数	55人	142人	262人	580人	863人	↗	440人	あしたか・きせがわ・千本・三浦戸田の各地域包括支援センター圏域においてフレイルチェックを実施。かなおか・かぬき・第五・原・片浜今沢圏域は業務委託にてフレイルチェックを実施。		今後も継続してフレイルチェックを実施
			フレイルチェックに2回以上参加した方の意識・行動の変容	59.8%	77.3%	34.6%	60.4%	59.4%	↘	70%	原則2回／人の参加を必須として、参加者自身の行動変容に対してのデータを用いた結果により、自身の健康意識の啓発を実施。	フレイルチェック実施が定例化した会場が増え、内容自体に慣れてしまった可能性がある。	継続参加率の向上を図る
④	高齢者地域包括ケアシステムの整備	長寿福祉課	全国統一の評価指標による地域包括支援センターの事業評価	644.9点	664.4点	657点	666.1点	668.8点	↗	665点	総合相談の内容分析や地域ケア会議の開催を通じ、課題解決に向け地域住民や医療福祉の専門職等と検討を実施。		今後も継続して総合相談の分析や地域ケア会議の開催を実施していく
⑤	地域福祉の推進	福祉企画課	ちょいてつボランティア利用登録者数	20人	73人	130人	185人	235人	↗	延べ100人	民生委員、地区社協役員等へ周知啓発を行い、広報に努めた。		KPI達成。地区社協等と連携し、利用促進を行う。
			ちょいてつボランティア利用回数	148回	1,310回	2,725回	3,279回	3,320回	↗	延べ750回	30分の作業を1回で算定。ゴミ捨てなどちょっとした生活上の困りごとにボランティアが対応した。		KPI達成。今後もボランティア育成とニーズのマッチングを継続する。
⑥	民間支援まちづくりファンド	地域自治課	ソフト事業における持続的な活動事業者（個人・団体）数	8事業者	9事業者	7事業者	3事業者	6事業者	↘	延べ18事業者	市民等が自発的に行う活動の持続的な事業の創出を図るため、補助金支援、選考段階での専門家による助言等を行った。	感染症法の位置づけが5類となったものの、コロナ禍において、活動自粛を余儀なくされていた市民等の活動再開が即座に本事業に反映されなかったため。	達成に向けて、引き続き補助金支援、選考段階での専門家による助言等を行うとともに、採択団体が実施する事業の周知等支援を行っていく。
⑦	多文化共生の推進	地域自治課	沼津市が住みやすいと感じる外国人住民の割合	未実施（R2）	42人に実施 98%	63人に実施 94%	71人に実施 99%	71人に実施 93%	↗	R3実績値の20%増	多言語相談窓口の運営、日本語教室の実施、国際交流フェアの開催、多文化共生ボランティア制度の運営、外国人向けSNSによる情報発信等を行った。		達成に向けて引き続き、多言語相談窓口の運営、日本語学習機会の提供、外国人と市民との交流イベント開催等の事業を実施していく。
4－4	新しい時代の流れを活用する		スマートシティ関連プロジェクト数	0件（R2）	延べ0件	延べ8件	延べ9件	延べ11件	↗	延べ12件			
①	自然環境の保全	環境政策課	特定地域における希少種の減少率	調査において確認された希少種の数（R3）	26種（浮島ヶ原）	10種（門池公園）	5種（長井崎周辺地域）	6種（香貫山）	―	0%（R3と同数）	香貫山における生物分布調査を実施。絶滅のおそれがある生物、6種の生息が確認された。		R7にについてはR3と同地域で再度モニタリング調査を実施予定だが、これまで市内の他地域の状況把握を優先するため、特定地域を再度モニタリング調査するまでに至っていないことからKPI指標の評価することが現状では困難である。
②	3Rの推進	クリーンセンター管理課	一人一日当たりごみ排出量	875g	834g	828g	805g	772g	↗	864g	ごみの分別・減量ガイドブック、各種広報、出前講座等でごみの分別と減量について周知するとともに、「おいくら」等民間事業者の活用により、ごみのリユースに努めた。		さらなる減量のため、環境教育の機会に3Rに関して市民に周知し、意識向上を図る。、
③	スマートシティの推進	政策企画課ほか	推進ビジョンに基づくプロジェクト数（実証実験を含む）	0件	延べ0件	延べ8件	延べ9件	延べ11件	↗	延べ12件	・電子申請 ・自動運転プロジェクト ・高専祭へのブース出展　ほか		X-Tech NUMAZU ビジョンに基づくプロジェクト（実証実験を含む）を、主体となる担当課と協議会会員とで連携して取り組み、まちづくりと連動した産学官民の共創によるスマートシティの実現を推進する。
④	行政ICT利活用	政策企画課、ICT推進課、人事課	削減業務時間	0時間	1,450時間	72時間	882時間	2184時間	↗	1,460時間	対応業務数が令和5年度の7業務から12業務へと利用拡大したことにより、大幅に削減時間が増えた。		RPAのさらなる利用拡大を図るため、次期RPA導入と併せ、利用環境を強化する。
⑤	キャッシュレス決済導入の推進	商工振興課	導入件数（セミナー参加者）	0件	88件	20件	15件	―	―	延べ100件	（R5年度事業完了）		